

令和4年度南アルプス市立八田小学校 自己評価書

令和5年2月6日(月)作成

学校長：川口 祐子

記述者：教頭 中山 素

【小中一貫校八田小中学校の教育】

1. 教育目標 「ふるさとの未来（あす）を創造する児童生徒の育成」
～知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指して～
2. 『八田 Children first』「明るい 伸びゆく 夢みる」児童から「未来を展く 理想は高く 世界をめざす」生徒へ
小中一貫校八田小中学校の教育は、【八田 Children first】をコンセプトに『1. 学習をつなぐ 2. 児童生徒をつなぐ 3. 教職員をつなぐ 4. 学校・家庭・地域をつなぐ』の4つの『つなぐプロジェクト』を柱とし、義務教育9年間で「途切れのない連続させた教育」となるよう取り組みます。
3. めざす児童生徒像
 - ふるさとを大切に思う児童生徒
 - 変化の激しい先行き不透明な社会に対応できる主体性のある児童生徒
 - 自律性・豊かな人間性を持ち、たくましく生きていくための健康、体力を持った児童生徒

【学校経営の概要】

学校教育目標

「豊かな心を持ち かしこく たくましい子どもの育成」

【めざす子ども像】

- 〔なかよく〕 思いやりの心を持ち 礼儀正しく行動する子ども
- 〔かしこく〕 自ら学び 友と対話し 深く考える子ども
- 〔たくましく〕 よく食べ よく運動し 命を大切にする子ども

【めざす学校像】

- (1) 仲よく助け合い、笑顔の集う学校
- (2) 学ぶ楽しさにあふれる学校
- (3) 整然とした、美しい学校
- (4) 安全で安心な居場所としての学校
- (5) ふるさと八田を誇れる学校

【めざす教師像】

- 子どもとのふれあいを大切にし、子どもとともに成長する教師
- 自己を高め、創意工夫して実践する教師
- 学ぶ姿勢をもち、互いに磨き合う教師
- 目標に向かって協働し合う教師
- 心身ともに健康で、児童、保護者、地域、同僚から信頼される教師

【特色ある教育活動】

- (1) 小笠原流礼法・立腰教育 心と体のバランスのとれた子ども
- (2) ふるさと教育 文化財課との連携や地域の人材を活用し、ふるさと八田を愛し、ふるさと八田に誇りをもつ子ども
- (3) 川柳 言葉を大切にし、感性を豊かにする子ども
- (4) 学習発表会（清流祭） 音楽を通して心をひとつにし、互いの絆を深めようとする子ども

【本年度の努力点】

- (1) 義務教育9年間を見通した教育課程をもとに、小中一貫教育を推進する。
- (2) 学びの質を高める授業づくりを推進し、学習意欲の向上と確かな学力の育成を図る。
- (3) 豊かな心を育成する道徳教育の充実を図る。
- (4) いじめを許さない集団づくりと不登校児童が生じない環境づくりに努める。
- (5) 命、体力、健康・安全、食育に関する指導の充実を努める。
- (6) 指導と支援にもとづく特別支援教育を推進し、その充実を図る。

I 全体評価

1. 教職員の自己評価 (22名実施)

(1) 自己評価の特徴

① A・B (肯定的評価) の合計が100%の項目について

- 1: 児童生徒一人ひとりが目標を持って学校生活を送れるよう指導を行っている。
- 2: 児童生徒は楽しく学校生活を送っている。
- 4: いじめなどの諸問題に対して、お互いに情報を共有し、組織的に取り組んでいる。
- 5: 「八田小中スタンダード」で育成をめざす、「伝え合う力」を伸ばすために、教育活動・教科指導の改善に努めている。
- 6: 学習のアイテムなどを活用して、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善に努めている。
- 11: 保護者(家庭)と情報を共有し、指導に取り組んでいる。
- 14: 外部関係機関と連携し、児童生徒の健全育成に努めている。
- 16: 児童生徒の安全が確保されるよう、防災教育・防犯・交通安全などの安全指導に努めている。

A・B (肯定的評価) の合計が80%未満の項目について 「なし」

② D (否定的評価) がついた項目について 「なし」

③ 昨年度学校評価との比較 (改善した項目、悪化した項目)

○ 改善した項目

(R3後期→R4の変化)

- 10: 小中の児童生徒の交流や職員の交流を積極的に行っている。

(92%→95.5%)

● やや悪化した項目

- 7: 計画的な家庭学習の手立てをしている。

(96%→95.5%)

- 8: 小笠原流礼法や立腰教育を意識した、心と体のバランスのとれた児童生徒の育成に努めている。

(100%→90.9%)

- 12: 地域の人材や施設を利用するなどの、地域の教育力を生かした教育活動を行っている。

(100%→90.9%)

- 13: 各種たよりやHP等により行事や授業などの情報提供を積極的に公開することを通して、「地域に開かれた学校」となるように努めている。

(96%→95.5%)

- 15: 情報化社会に対応した児童生徒を育成するため、タブレットやスマートフォン等の

利用にかかわるモラル教育、リテラシー教育を行っている

(96%→90.9%)

(2) 3学期～来年度に向けた取組課題 (自由記述より抜粋)

○ 児童の育成に関わる課題

- ・教職員間の協調性の強化や「チーム八田小」としての意識高揚のための手立て・方策

2. 児童アンケート (288名実施)

(1) 児童アンケートの特徴

① A・B（肯定的評価）の合計が80%以上の項目について

18項目（睡眠時間、携帯・スマホに関わる質問項目は除外）中、16項目において、肯定的評価が80%以上となっている。また、そのうち10項目で肯定的評価が90%を超える結果となった。

② A・B（肯定的評価）が低い項目（80%未満）について (R3後期→R4の変化)

4：あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか (75%→78.1%)

13：あなたは、宿題以外にも家庭学習に取り組んでいますか(塾や家庭教師を除く) (53%→62.8%)

14：あなたは、家で読書をしていますか(宿題を除く) (58%→69.8%)

※ いずれの項目も、昨年度と同じ項目において、低い評価が見られた。

(2) 昨年度後期との比較

① A・B（肯定的評価）の合計がある程度増加した項目 (R3後期→R4の変化)

1：あなたは、学校生活が楽しいと思いますか (92%→94.1%)

4：あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか (75%→78.1%)

7：あなたは、相手の気持ちを考えて、行動していますか (92%→94.4%)

9：あなたは、困ったことや心配なことを相談できる先生がいますか (71%→91.7%)

11：あなたは、授業が全般的にわかりやすいと思いますか (91%→96.5%)

12：あなたは、授業中、自分の考えを発表していますか (64%→82.6%)

13：あなたは、宿題以外にも家庭学習に取り組んでいますか (53%→62.8%)

14：あなたは、家で読書をしていますか (58%→69.8%)

19：あなたは、家の人に学校のことを話していますか (75%→84.4%)

② A・B（肯定的評価）の合計がある程度減少した項目 (R3後期→R4の変化)

2：あなたは、学校生活での時間を守っていますか (98%→95.5%)

3：あなたは、校則などの「きまり」や約束ごとを守っていますか (96%→94.1%)

6：あなたは、先生や友達の話をしっかり聴いていますか (98%→96.9%)

8：あなたは、給食当番や清掃をしっかりやっていますか (99%→97.9%)

16：あなたは、規則正しい生活ができていますか (95%→86.4%)

18：あなたは、正しいあいさつを自分から進んでやっていますか (90%→88.9%)

(4) 3学期～来年度に向けた取組課題

① 肯定的評価が80%未満の項目を改善することを課題とする

4：あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか

13：あなたは、宿題以外にも家庭学習に取り組んでいますか(塾や家庭教師を除く)

14：あなたは、家で読書をしていますか(宿題を除く)

② 携帯、スマホの使い方について、引き続き、保護者とのルールづくりを推奨する。

3. 保護者アンケート (289名実施：兄弟姉妹がいる場合も、生徒数分の回答をお願いした。)

※本年度、質問項目を大きく変更したため、経年変化を見とれない項目が多い。

(1) 保護者アンケートの特徴

① A・B（肯定的評価）の合計が90%以上の項目について

14項目（携帯・スマホに関わる質問項目は除外）中、10項目において、肯定的評価が90%以上となっている。

- 1：お子さんは、楽しく学校生活を送っていると思いますか (98.6%)
- 2：学校はいじめの未然防止や子供たちの間違った行動に対して、指導していると思いますか (95.8%)
- 4：学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか (93.7%)
- 5：学校は、わかりやすい授業を行っていると思いますか (98.2%)
- 6：学校は、お子さんが考えを発表する機会を持っていると思いますか (99%)
- 8：お子さんは、ご家庭であいさつができていますか (90.7%)
- 11：学校は、保護者と情報を共有し、児童生徒の指導にあたっていると思いますか (94.1%)
- 12：学校は、各種便りやホームページ等を通して積極的な情報提供を行ったり、行事や授業を積極的に公開したりすることを通して、「地域に開かれた学校」となるよう努めていると思いますか。 (94.1%)
- 13：学校は教育活動に適した施設・設備が整っていると思いますか (95.1%)
- 14：学校は、防災・防犯・交通安全などの安全指導に努めていると思いますか。 (96.9%)

② A・B（肯定的評価）の合計が80%未満の項目について

14項目中2項目において、肯定的評価が80%未満となっている。

- 7：お子さんは、宿題以外にも家庭学習に取り組んでいますか (59.5%)
- 9：お子さんは、ご家庭で整理整頓ができていますか (48.3%)

(2) 昨年度後期との比較

① A・B（肯定的評価）の合計がある程度増加した項目 (R3→R4の変化)

- 1：お子さんは、楽しく学校生活を送っていると思いますか (97%→98.5%)
- 2：学校はいじめの未然防止や子供たちの間違った行動に対して、指導していると思いますか (93%→95.8%)
- 4：学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか (90%→93.7%)
- 8：お子さんは、ご家庭であいさつができていますか (86%→90.7%)
- 10：学校は、小中一貫校として小学校と中学校が連携した教育活動を行っていると思いますか (86%→86.3%)

② A・B（肯定的評価）の合計がある程度減少した項目 (R3→R4の変化)

- 3：お子さんは、困ったことがあった時に相談などのできる友だちがいると思いますか (96%→89.3%)
- 12：学校は、各種便りやホームページ等を通して積極的な情報提供を行ったり、行事や授業を積極的に公開したりすることを通して、「地域に開かれた学校」となるよう努めていると思いますか。 (95%→94.1%)

II まとめ(成果と課題)

「教職員自己評価」「児童アンケート」「保護者アンケート」の結果から、今後、以下の事柄について改善をしていく必要がある。

(1) 学習保障と学力向上のための取組

【成果】

○小中一貫校として義務教育9年間を見通した教育課程を実施しようと研究する中で、小中間の情報交換・共有がすすんでいる。

【課題】

- 「児童アンケート」から、学習への取組や家庭学習に課題があるということがうかがえる。
- 「保護者アンケート」から、特に家庭学習について保護者の不安が大きいことがわかる。

【対策】

- ・本校の特色を大切に守りつつも行事の精選をすすめ、児童に十分な学力を保障できる教育課程を編成する。また、職員の業務改善にも留意することで、児童と向き合う時間や教材研究等の時間を確保する。
- ・一斉授業では発言(表現)ができない生徒も、グループ学習では自らの考えを発表しやすくなる。一方教師も机間巡視をし、一人一人の児童の考えを見取ることが可能となる。個々の考えを教師が肯定的に評価する学習を積み重ね、個々が自分の考えに自信を持てる素地を作る。
- ・八田小中学習スタンダード(学習スキル・学習プロセス・学習モデル・学習ツール・学習チーム・学習ルール)を意識した授業づくり、「やまなしスタンダード」を取り入れた授業実践を推進する。
- ・毎月行っている「家庭学習パワーアップ週間」を利用し、発展的な学習に結び付ける手法について教職員が情報交換を行ったり、お手本となる家庭学習の児童の例を掲示したりして全校体制で家庭学習の充実を図る。
- ・県教委から出されている「学びの甲斐善八か条」を基に、家庭学習の定着を図る。

(2) いじめ・不登校に対する取組

【成果】

- 教職員の日頃からの児童への見取りや年2回実施している「いごちアンケート(いじめアンケート)」をもとに、子ども達の実態把握に努め、「いじめ」等の初期対応を迅速にすることができた。
- 「いじめの積極的認知」により、認知件数は増えたが、本人からの聞き取りや事実確認をきちんと行う中で、組織的な対応ができたので、今のところ重大事態の案件はない。
- 児童会の取り組みの一つに「いじめ0宣言」があり、「いじめゼロの八田小」の意識があり、「いじめは絶対してはいけないことだ」という気持ちが児童に定着していると感じる。

【課題】

●SNS等を背景とした人間関係のトラブルが増えてきたが、携帯・スマホを持つ児童が増加しているのに対して、保護者と使い方のルールを定める家庭が減少してきている。

【対策】

- ・「学校いじめ防止基本方針」に則った取組を確実にを行うとともに、毎年見直しを行う。
- ・引き続き、いじめの認知を積極的にを行い、早期発見・早期対応に努めていく。
- ・いじめの未然防止の取組(授業づくり・集団づくり・居場所づくり・絆づくり)を継続していく。
- ・「いじめ対策委員会」を中心として、組織的な対応を行う。
- ・いじめ防止に繋がる道徳科の授業や道徳教育を充実させる。
- ・いじめの被害者や不登校生徒に寄り添いながら、相談(SCを含む)や家庭訪問等を行う。
- ・保護者との連絡を密にするとともに、関係機関(児童相談所・市子育て支援課・警察署・病院等)との連携をとりながら、指導にあたる。
- ・携帯、スマホの使い方について、引き続き、授業参観等の機会を使って、保護者とのルールづくりを推奨する。

(3) 地域に開かれた学校づくり・コミュニティ・スクールの定着に向けた取組

【成果】

○コロナ禍ではあったが、多くの行事でコロナ以前の実施形態に戻すことができ、保護者に参観頂くことができた。

【課題】

●小中一貫校やコミュニティ・スクールのめざすところが保護者や地域住民に十分に伝えきれていない状況がある。

【対策】

- ・CS(コミュニティ・スクール)のめざすところなどを、教職員・児童・保護者、地域の方々に周知していく。
- ・地域の方を教育課程の中に取り込む工夫をする。(授業やクラブ活動のお手伝いなど)そのために、地域の人材を掘り起こす。
- ・学校運営協議会において、学校評価をもとにした学校経営方針を示し、理解を得る。また、その結果をPTA理事会やPTA総会等の機会において、全保護者に周知する。

